

認知症問題に地域の力不可欠

大樹町内で老健ケアステーションひかり、帯広市内で介護施設等を運営する社会福祉法人光寿会は、学習療法家族交流会を同市内で開き、利用者家族、地域住民、関係者ら約200人が参加した。



取り組みの成果や感動体験が発信された

社会福祉法人 帯広で学習療法家族交流会

同交流会は、光寿会「新しい」と思いを語った。が取り組む認知症改善プログラム「学習療法」の成果や感動体験を発信するため年1回開催。14回目の今年も職員による介護劇とショートムービーを通して2事例を発表。同市内で実施している「脳の健康教室」活動報告も動画を交え行った。

「地域の力は認知症を越える」では川邊弘美、芦別慈恵園施設長、中島剛帯広市保健福祉部長が登壇。川邊施設長は芦別市内で展開する各事業を紹介、「要介護高齢者が、できるだけ長く自宅で生活できるようになまちなってほ

森光弘光寿会理事長はあいさつで、「これからの長寿高齢社会を迎えるに当たり、認知症問題は避けて通れない問題。行政任せでは乗り越えられない」とし、地域の力が不可欠と強調。次回から「学習療法地域交流会」に名称変更し、高齢化社会を地域全体で考え、乗り越えるための会とする考えを示した。